

【概要版】大川広域行政組合介護サービス事業経営戦略

1. 計画の目的と期間

- **目的**：施設の老朽化、人材不足、人口減少などの経営環境の変化に対応し、将来にわたり安定的かつ質の高いサービスを提供するため、中長期的な経営の基本計画を策定する。
- **期間**：令和8年度～令和12年度（5年間）

2. 対象事業と現状の課題

- **対象事業**：特別養護老人ホーム（定員50人）、居宅介護支援事業、訪問介護事業
- **課題**
 - 建設後28年が経過した施設の老朽化と設備更新
 - 介護人材の確保と育成（若年層・有資格者の確保）
 - 物価高騰等による管理費用の増加

3. 経営の基本方針

- **経営理念**：笑顔いっぱいの信頼される施設を目指します
- **基本方針**
 - ① 利用者本位のサービス提供
 - ② 地域や家庭との結び付きを重視した支援
 - ③ 多職種の連携
 - ④ 地域に開かれた施設
 - ⑤ 質の高い介護サービスの提供
 - ⑥ 経営の健全化

4. 数値目標（稼働指数）

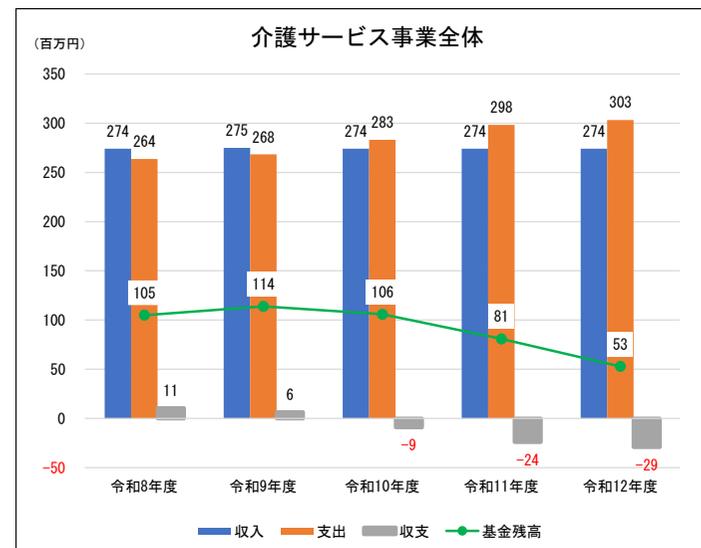
高い稼働率を維持し、適正な事業収入の確保を図る。

- **特別養護老人ホーム**：年延利用者数 17,885 人（1日平均 49.0 人 / 稼働率 98%）
- **居宅介護支援事業**：年延利用者数 1,220 人
- **訪問介護事業**：年延利用者数 13,870 人

5. 投資・財政計画（収支見通し）

【ポイント】

- **投資**：令和10年度～12年度にかけて、設備改修工事（空調設備、昇降設備、給排水設備）を総額5,000万円で実施予定。
- **財源**：計画的に積み立てた「財政調整基金」を活用することで、単年度の収支不足を補う。
- **結果**：期間中、構成市の負担は「ゼロ」とし、計画終了時（令和12年度末）には約5,300万円の基金残高を確保する。



【収支・基金残高の推移表】

区分	R8	R9	R10（投資年）	R11（投資年）	R12（投資年）
形式収支	黒字	黒字	黒字	黒字	黒字
基金残高	約1億500万円	約1億1,400万円	約1億600万円	約8,100万円	約5,300万円

※令和10～12年度は工事費等により単年度の収支（収入－支出）は赤字となるが、計画的な基金取崩しにより形式収支は全年度黒字を確保し、運営に支障はない。

6. 効率化・健全化への取組と事業の方向性

- **事業の有効活用**：新規加算の取得と空床型短期入所等を活用した在宅から施設までの一体支援の充実により、将来の特養入所需要を確保し、収入と稼働の安定化を図る。
- **人材確保と育成**：処遇改善加算等の活用による賃金改善、ICT・ロボット技術等の導入による業務負担軽減と生産性向上を図る。
- **公営企業の役割**：中立性・公平性を保ち、民間では対応困難なケースの受け入れや、看取り介護の実践など、地域のセーフティネットとしての役割を果たす。
- **将来を見据えた事業継続**：施設の建替えや大規模改修には多額の投資を要するため、将来的な対象者数の減少（令和12～17年頃がピーク）を見据え、長期的な持続可能性の観点から事業継続のあり方を検討していく。